

# 市原市山新遺跡永津前地区

2 0 1 3

株 式 会 社 Q O L  
市 原 市 教 育 委 員 会

# 市原市山新遺跡永津前地区

2 0 1 3

株 式 会 社 Q O L  
市 原 市 教 育 委 員 会

# 例 言

- 1 本報告書は、千葉縣市原市姉崎2580-1に所在する山新遺跡永津前地区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、老人デイサービスセンターの設置にともない、株式会社QOLの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は、事業範囲750㎡のうち、113㎡を対象として実施した本調査である。これは、平成24年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した75㎡の確認調査の結果を受けたものである。
- 4 発掘調査、整理作業は、以下のとおりに行った。  
発掘調査 平成24年11月2日～平成24年11月9日 担当 小川浩一  
整理作業 平成24年11月12日～平成25年3月8日 担当 小川浩一
- 5 本書の執筆・編集は小川が行った。
- 6 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 7 本遺跡の市原市埋蔵文化財調査センターの調査コードはセ506である。
- 8 本書に収録した出土遺物および記録類は、市原市教育委員会ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

## 本文目次

### 例 言

第1章 はじめに…………… 2	2 溝状遺構…………… 6
第2章 検出された遺構と遺物…………… 2	第3章 まとめ…………… 6
1 土坑跡…………… 2	報告書抄録…………… 巻末

## 挿図目次

第1図 山新遺跡永津前地区位置図…………… 1	第4図 平面図・断面図…………… 4
第2図 山新遺跡永津前地区地形図…………… 1	第5図 遺物実測図…………… 5
第3図 全体図…………… 3	

## 表 目 次

第1表 出土遺物観察表…………… 6
--------------------

## 写真図版目次

図版1 遺構写真	図版2 出土遺物写真
----------	------------



(国土地理院 1/25,000地形図「姉崎」平成10年発行より)

第1図 山新遺跡永津前地区位置図 (1/50,000)



(市原市基本図 1/2,500 平成16年測図より)

0 200m

第2図 山新遺跡永津前地区地形図

(1/5,000)

# 第1章 はじめに

## 1 遺跡の概要

### (1) 位置と環境

当遺跡は、市原市南部の姉崎地区にあり、北方約1kmの東京湾岸に展開する沖積平野の奥部に位置し、標高は7～8m前後を測る。南には姉崎天神山古墳を乗せる標高35m前後の姉崎台地が迫っている。遺跡が存在する沖積地は、これまでの調査遺跡によって、砂堆列を中心に縄文時代晩期から古墳時代の遺構が展開していることがわかっており、当地点は隣接する南側に県道が横断していることから、砂堆列の付近にあることが予想され、前述期の遺構の存在が想定された。

### (2) 周辺の遺跡

当沖積地における調査事例は多くないが、縄文時代から古墳時代の遺跡が多数存在している。

本遺跡の北西600mにある、古墳時代中期の前方後円墳である姉崎二子塚古墳が築造された砂堆列では、その砂堆列を縦断するように、都市計画道路建設に伴う遺跡調査が行われており、縄文時代晩期の多量の土器や、弥生時代中期の竪穴建物跡及び古墳時代中期の円墳等が検出されている。

## 2 調査の経緯

今回の調査範囲は、平成24年度に国庫補助事業として実施した確認調査の結果を受けて決定された。調査対象範囲750㎡における確認調査の結果、遺構を確認した範囲のうち、施工上、遺構の保護ができないと判断された東側部分113㎡が対象となった。

# 第2章 検出された遺構と遺物

## 1. 土抗跡

**概要** 調査によって検出された土抗跡は3基あり、いずれも弥生時代後期である。そのうち、1基は平面規模から竪穴建物跡である可能性がある。他の2基は土抗墓と考えられ、うち1基は、壺の上部を打ち欠いて破片を置いた上に、下半部を「土器棺」として置いたものと考えられる。

### 001号跡

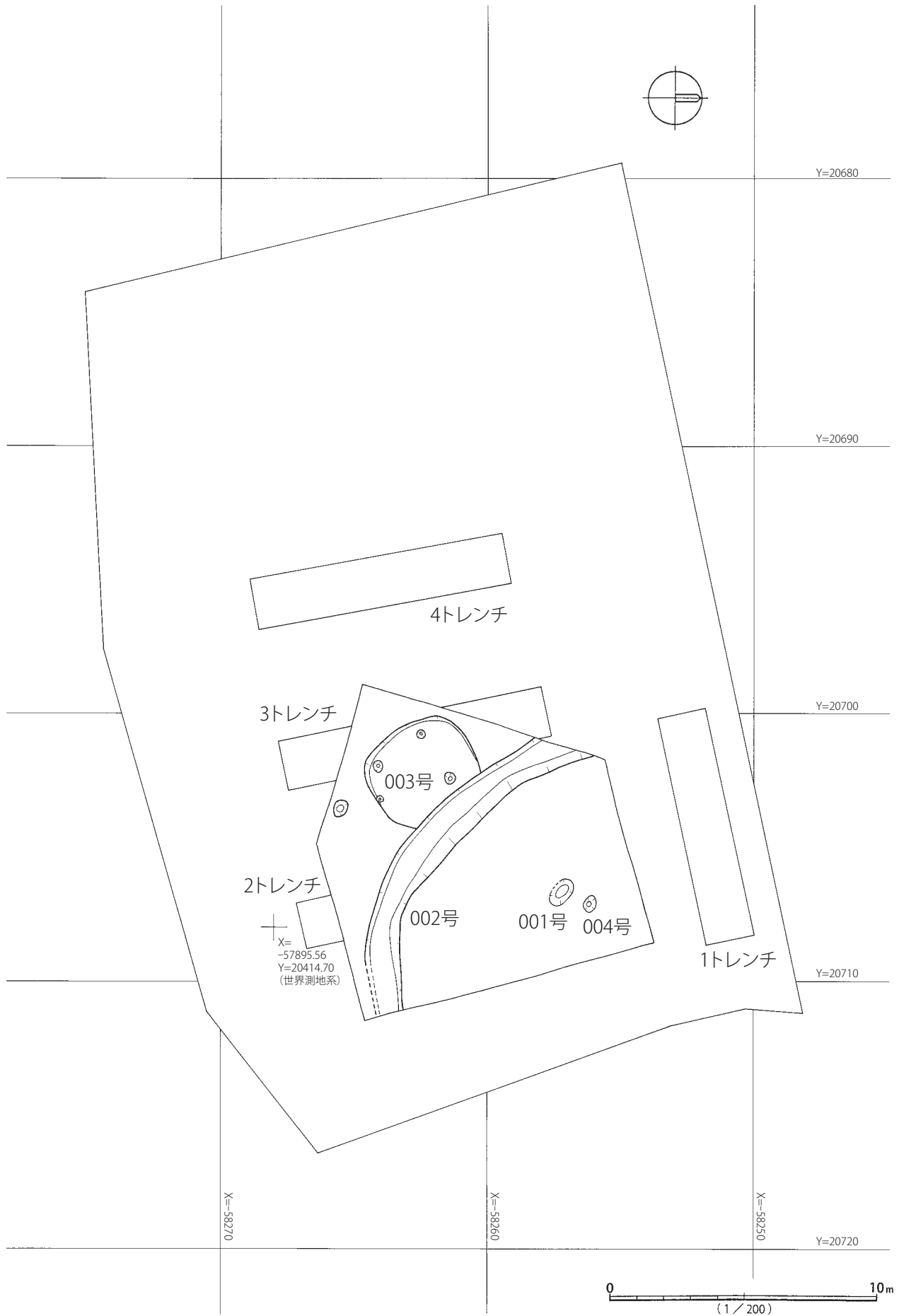
**位置** 調査区の北東に位置する。

**形態・構造** 径1.0×0.7m前後の不整な楕円形を呈する。深さ0.2m程度を測り、埋土は、暗黒色粘質土を主体とする。弥生時代後期の甕1・2が、連結されて北西側に倒れた状態で出土した。1を上にして、径の小さい2を下にして連結していたと考えられる。1の底部は打ち欠けられていたと考えられるが、2の底部も打ち欠けられていたかは、定かではない。「甕棺」であろうか。地上側の半分は欠失しており、骨粉等は認められなかったが、土抗墓と考えられる。

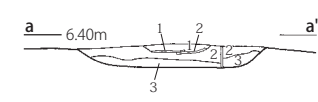
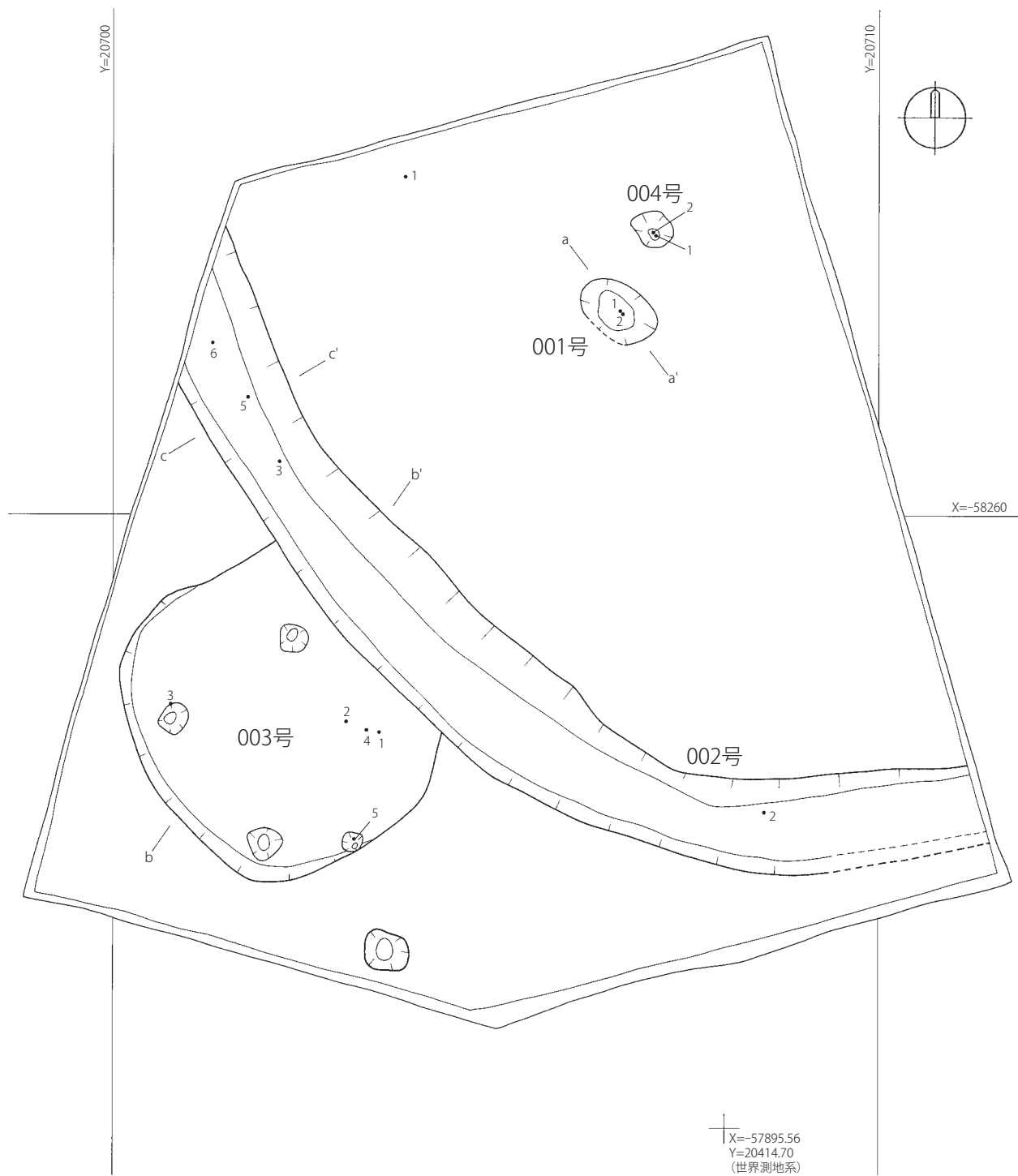
### 004号跡

**位置** 調査区の北東に位置し、001号跡に近接する。

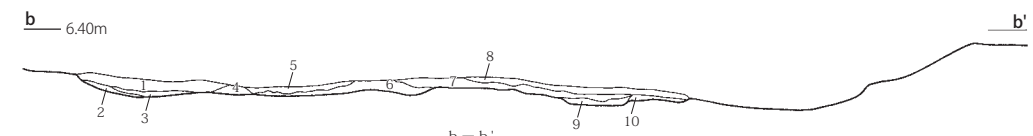
**形態・構造** 径0.6×0.4m前後の不整な円形を呈し、深さ0.2m程度を測る。土抗墓と考えられ、弥生時代後期の壺の胴部1や、表面が殆ど剥離している安山岩の石3の上に、壺下半部2が置かれていた。1・2は、同一個体と考えられる。壺形土器の上半部を石3で打ち割った後、割られた胴部片1や使われた石3を、最初に墓に入れ、骨を納めた壺下半部2を、その上から安置した



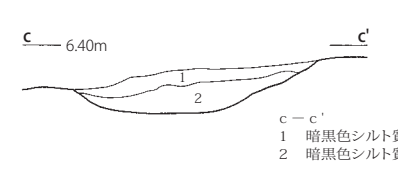
第3図 全体図



- a-a'
- 1 暗黒色シルト質粘質土 (黒色味強い)
  - 2 暗黒色粘土質シルト+暗黒灰色シルト質砂 (少量)
  - 3 暗灰色シルト質砂+暗黒灰色粘土質シルト (少量)

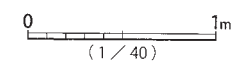
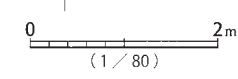


- b-b'
- 1 暗黒灰色シルト質砂+暗灰色砂 (少量だが均等)
  - 2 暗灰色砂+暗黒色シルト質粘質土 (少量だが均等)
  - 3 暗黒色シルト質粘質土+暗灰色シルト質砂 (少量だが均等)
  - 4 暗黒色粘土質シルト (少量)+暗灰色砂質シルト
  - 5 暗黒灰色粘土質シルト+暗灰色砂質シルト (2~3cm大・少量)
  - 6 暗黒色シルト質粘質土 (少量)+暗灰色砂質シルト (均等)
  - 7 暗黒色粘土質シルト+暗灰色シルト質砂 (少量)
  - 8 暗黒色粘土質シルト (黒色味強い)
  - 9 暗黒色粘土質シルト+暗灰色シルト質砂 (均等)
  - 10 暗灰色シルト質砂+暗黒色粘土質シルト (少量)



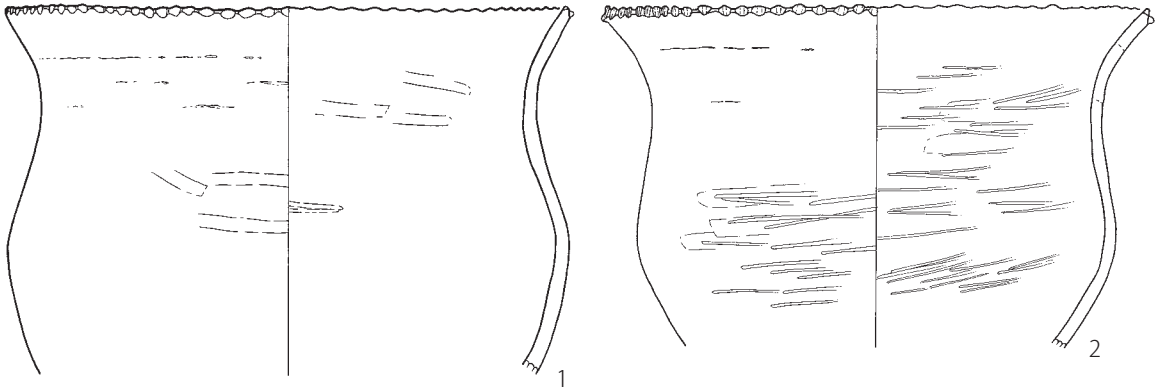
- c-c'
- 1 暗黒色シルト質粘質土 (黒色味強い)
  - 2 暗黒色シルト質粘質土+暗黒灰色シルト質砂 (少量)

X=-57895.56  
Y=20414.70  
(世界測地系)

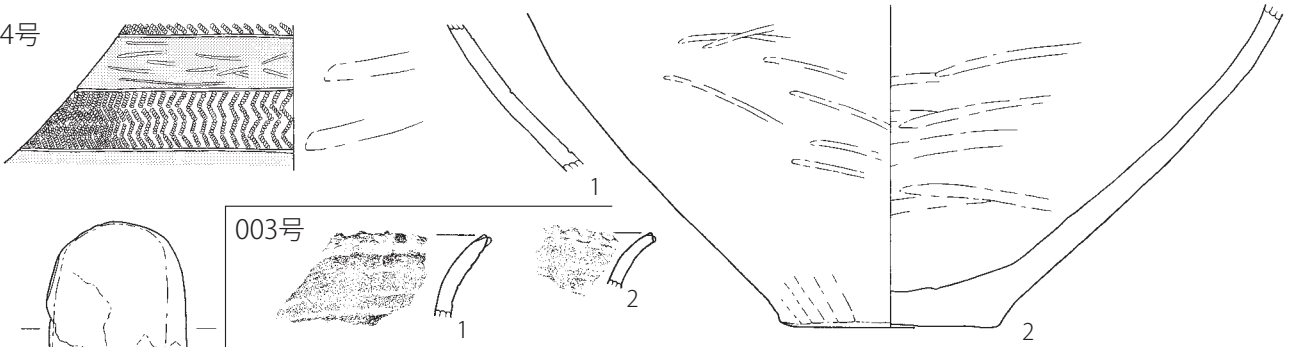


第4図 平面図・断面図

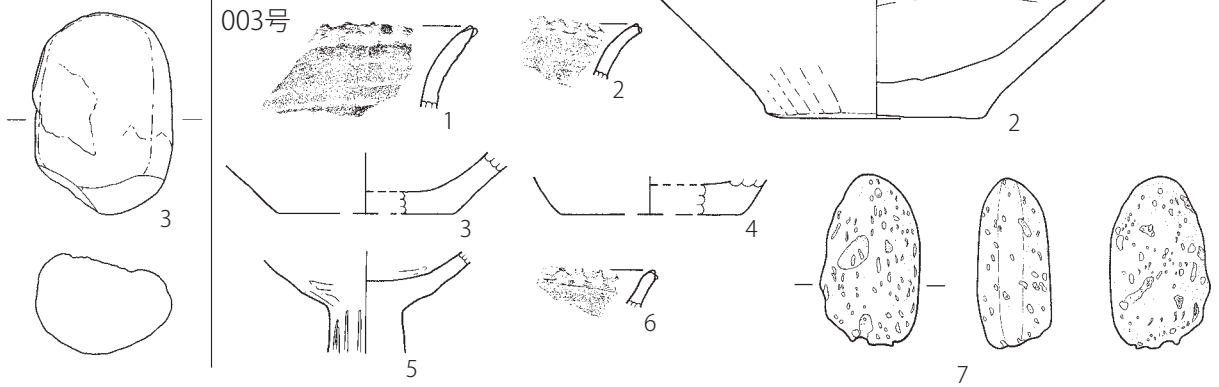
001号



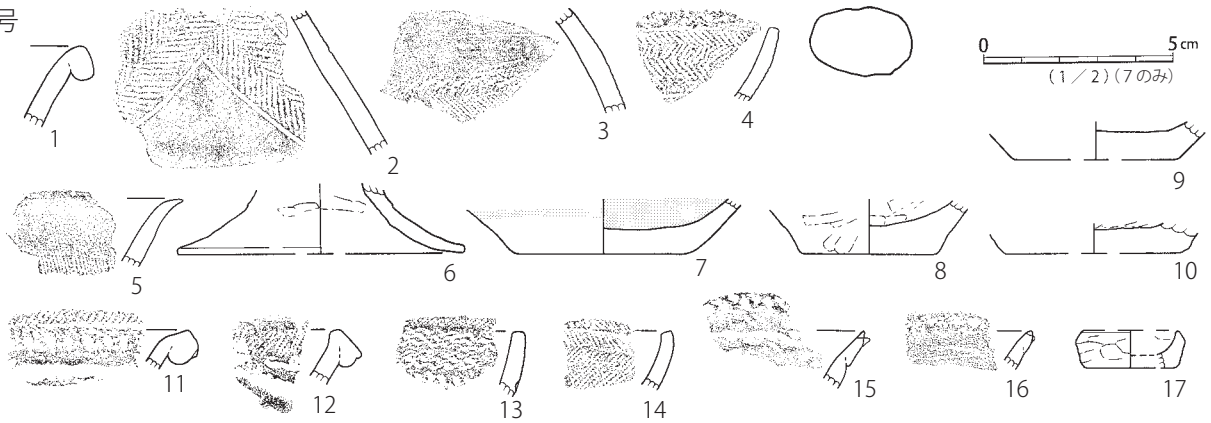
004号



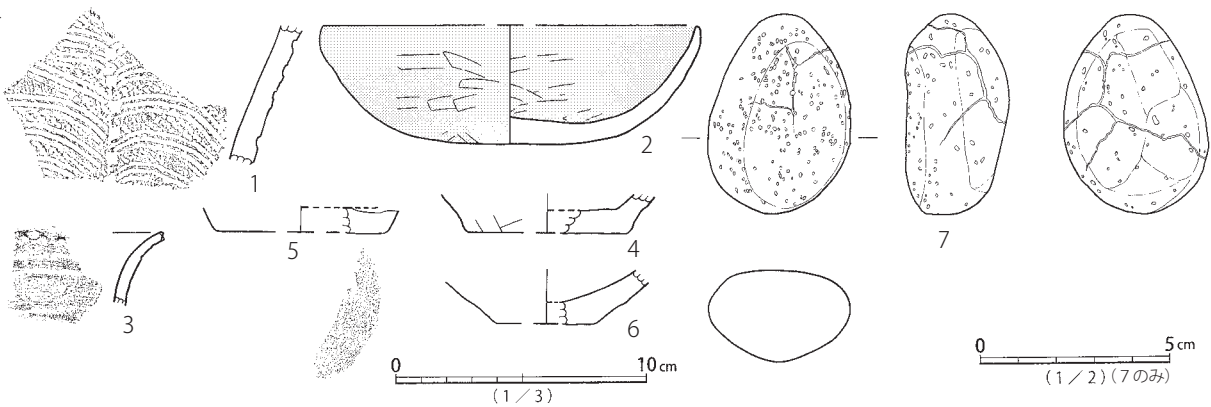
003号



002号



一括



第5図 遺物実測図



のだろうか。骨粉等は認められなかったが、土坑墓と考えられる。

003号跡

位置 調査区の南西に位置し、002号跡と重複する。

形態・構造 径4.0×3.2m前後のやや方形気味の不整な円形を呈し、深さ0.1~0.2m程を測る。遺構自体の残存状態が悪く土坑としたが、平面形態から、竪穴建物跡であった可能性は否定できない。遺物は、弥生時代後期の甕口縁部1・2等が出土しているが、僅少である。

2. 溝状遺構

概要 調査によって検出された溝状遺構は、1条あり、古墳時代前期と考えられる。

002号跡

位置 調査区の中央を、北西から南東に向かって縦走しており、003号跡と重複する。

形態・構造 検出長12.0m、幅1.2~1.6m前後、深さ0.2~0.4m程を測る。覆土は、暗黒色粘質土と灰色砂を主体とする。北西から南東に向かって、弧を描くように曲がりながら南下しており、溝状遺構としたが、円墳の周溝となる可能性も否定できない。遺物は、ハケメの入った甕口縁部5、高杯6などが出土しているが、僅少である。

第3章 まとめ

今回の調査は限られた範囲であったが、弥生時代後期から古墳時代前期の遺構が検出された。特に弥生時代後期の土坑墓は、2つの甕形土器を連結した「甕棺」の可能性や、壺の上部を打ち欠いて破片を納めた後、下半部を「土器棺」として安置する等、当時の葬送形態を考える上で興味深い。今後、周囲の調査事例が蓄積され、当時の歴史環境が復原されていくことを期待したい。

第1表 出土遺物観察表

※径は、復元値を含む。器高は、現存高。(cm)

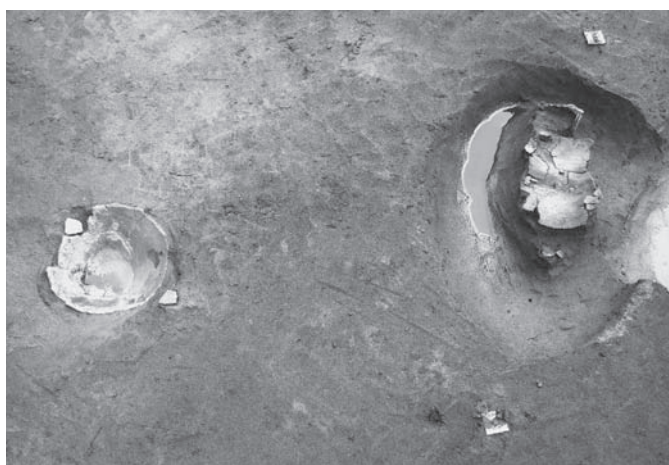
遺構 番号	種類	器種	口径 (上径)	口径 (下径)	底径 (下径)	最大径	器高	胎土 含有物	焼成	色調	調整	その他	
001	1	弥生 甕	22.6	1/2	(19.6)	1/2	(14.5)	密、白色粒(~1.0mm)少量・黒色粒(~0.5mm)微量	良好	明褐色	外面口縁部、ヘラ状工具による刻み目、口縁部~頸部、輪軸み痕残す、ヘラナデ/内面ヘラナデ		
001	2	弥生 甕	21.6	1/4	(15.0)	1/4	(13.6)	密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)微量・赤色粒(~2.0mm)微量・石英(~0.5mm)微量	良好	明褐色	外面口縁部、ヘラ状工具による刻み目、ヘラナデの後、ヘラミガキ/内面ヘラナデの後、ヘラミガキ		
002	1	弥生 甕						密、白色粒(~1.0mm)少量・黒色粒(~1.0mm)微量・石英(~0.5mm)微量・小礫(~2.0mm)微量	良好	褐色	外面折り返し口縁、ナデ、ヘラナデ。下端面、ヘラミガキ、赤彩/内面ナデ、ヘラナデ。下半部、ヘラミガキ、赤彩		
002	2	弥生 甕						密、黒色粒(~0.5mm)少量・白色粒(~1.5mm)少量	良好	にぶい褐色	外面口縁部、ヘラミガキ、赤彩/内面ヘラナデ。上半部、赤彩/内面ヘラナデ。全面、赤彩		
002	3	弥生 甕						密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)微量	良好	にぶい赤褐色/灰黄褐色	外面S字状筋部で区画された羽状縄文めぐる。無文部、赤彩/内面ナデ		
002	4	弥生 鉢						密、黒色粒(~0.5mm)少量・白色粒(~1.0mm)均等	良好	にぶい褐色	外面口縁部、斜縄文、口縁部、花輪で区画された中に、羽状縄文/内面ナデ		
002	5	土師器 高杯						密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)微量・石英(~0.5mm)微量	良好	にぶい褐色	外面口縁部、ヨコナデ、頸部、縦位のハケメ/内面口縁部、ヨコナデ。のち、縦位のヘラミガキ、頸部、横位のハケメ、のち、横位のヘラミガキ		
002	6	土師器 高杯	(5.0)		11.2	1/4	(2.8)	密、褐色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量	良好	にぶい赤褐色	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る		
002	7	弥生 甕	(10.8)		7.0	1/1	(2.2)	やや粗、白色粒(~1.0mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~1.0mm)微量	やや不良	赤褐色	外面ヘラナデ。上半部、赤彩/内面ヘラナデ。全面、赤彩		
002	8	弥生 甕	(7.8)		5.6	3/4	(2.1)	密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)少量・赤色粒(~2.0mm)少量	やや不良	赤褐色/灰黄褐色	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ		
002	9	弥生 甕	(8.4)		6.4	1/4	(1.5)	やや粗、白色粒(~1.5mm)均等	やや不良	オリーブ風	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ		
002	10	弥生 甕	(8.2)		7.0	1/3	(1.2)	やや粗、赤褐色粒(~2.0mm)少量	良	にぶい褐色	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ		
002	11	弥生 甕						密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量	良好	褐色	外面折り返し口縁、口縁部、縄文原形による刻み目、口縁部、羽状縄文/内面ヘラミガキ、赤彩		
002	12	弥生 甕						密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・赤色粒(~0.5mm)少量	良好	にぶい褐色	外面折り返し口縁、口縁部に斜縄文/内面ナデ、赤彩		
002	13	弥生 鉢						密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)微量・赤色粒(~1.5mm)微量	良好	にぶい褐色	外面口縁部、斜縄文、口縁部、S字状筋部。下端面にヘラ状工具による刻み目/内面ヘラナデ、ヘラミガキ、ヘラミガキ部、赤彩		
002	14	弥生 鉢						密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)微量・石英(~0.5mm)微量	良好	にぶい褐色	外面口縁部、斜縄文、口縁部、羽状縄文めぐる/内面ヘラナデ、ヘラミガキ部、赤彩		
002	15	弥生 甕						密、白色粒(~1.0mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)微量・赤色粒(~0.5mm)微量	良好	にぶい褐色	外面口縁部、ヘラ状工具による刻み目、ナデ/内面ナデ、ヘラナデ		
002	16	弥生 甕						密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)微量	やや不良	褐色	外面口縁部、ヘラ状工具による刻み目、口縁部、ナデ/内面ナデ		
002	17	土製品 ミニフィア土器	3.8	1/4	3.6	1/4	4.3	1.5	密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)微量	良	浅黄褐色	外面ナデ、ユビオサエ/内面ナデ、ユビオサエ	
003	1	弥生 甕						密、白色粒(~1.0mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)微量	良好	明赤褐色	外面口縁部、棒状工具による刻み目/内面ヘラナデ		
003	2	弥生 甕						密、黒色粒(~1.0mm)少量	良好	赤褐色	外面口縁部、棒状工具による刻み目、ヘラナデ/内面ヘラナデ		
003	3	弥生 甕	(11.0)		7.0	1/4	(2.4)	密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)微量	良好	にぶい黄褐色	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ		
003	4	弥生 甕	(9.1)		7.0	1/6	(1.4)	やや粗、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)微量・石英(~0.5mm)微量	良	褐色	外面ヘラナデ/内面ヘラナデ		
003	5	土師器 高杯	(8.0)	1/6	(3.0)	1/6	(4.0)	密、白色粒(~1.0mm)微量・黒色粒(~0.5mm)微量	良好	明赤褐色	外面杯部、ヘラナデ、脚部、ヘラミガキ/内面強いヘラナデ		
003	6	弥生 甕						密、黒色粒(~0.5mm)微量	良好	赤褐色	外面口縁部、棒状工具による刻み目/内面ヘラナデ		
003	7	石器 軽石	現存長(4.5)	幅2.6		厚さ1.8				浅黄褐色		6.0g 下端面、欠失。	
004	1	弥生 甕	(13.4)		(23.0)		(5.8)	密、白色粒(~1.5mm)少量・黒色粒(~0.5mm)微量・赤色粒(~1.0mm)少量	良好	明赤褐色	外面頸部、沈線で区画された中に、羽状縄文めぐる。無文部、ヘラミガキ、赤彩/内面ヘラナデ	胴部上半のみ現。004-2と同一個体。	
004	2	弥生 甕	(29.9)		8.7	2/3	(12.8)	密、白色粒(~0.5mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・赤色粒(~0.5mm)微量	良好	灰褐色/褐色	外面ヘラミガキ。体部下端、ヘラナデ/内面ヘラナデ	004-1と同一個体。	
004	3	石器 載石か	現存長(8.0)	幅(5.4)		厚さ(3.8)				灰		247.4g 安山岩。下端面分、載打痕み。	
一括	1	縄文 深鉢						密、白色粒(~1.0mm)微量・黒色粒(~0.5mm)少量・小礫(~1.0mm)微量	良好	にぶい褐色	底の斜縄文を施した後、動符文、平直符文による押し引き文を施す	前期縄文式か。	
一括	2	土師器 杯	15.0	1/3	5.0	1/3	4.7	密、褐色粒(~1.0mm)少量	良好	にぶい褐色	外面口縁部ヨコナデ。体・底部ヘラミガキ、赤彩/内面ヘラナデ、赤彩		
一括	3	弥生 甕						密、褐色粒(~1.0mm)少量・黒色粒(~0.5mm)少量・石英(~0.5mm)少量	良好	褐色/灰黄褐色	外面口縁部、棒状工具による刻み目/内面ヘラナデ		
一括	4	弥生 甕	(8.4)		6.3	1/3	(1.5)	密、白色粒(~0.5mm)少量・黒色粒(~1.0mm)少量	良好	明赤褐色	外面ヘラミガキ/内面ヘラナデ		
一括	5	土師器 甕	(7.8)		6.4	1/3	(1.0)	密、白色粒(~1.0mm)少量	良好	にぶい褐色	外面ヘラミガキ/内面ヘラナデ		
一括	6	弥生 甕	(8.0)		4.0	1/4	(2.1)	密、白色粒(~0.5mm)少量・褐色粒(~1.0mm)少量・石英(~0.5mm)少量	良好	にぶい褐色/黒褐色	外面ヘラミガキ/内面ヘラナデ	底部、回転糸切り痕ありか。	
一括	7	土製品 石形土製品	現存長5.3	幅3.8		厚さ2.4		密、白色粒(~2.0mm)均等・黒色粒(~1.0mm)均等	良好	褐色~黒褐色		40.4g 被熱受け、一部、赤色化している。	



調査前（北西から）



調査状況（北西から）



001号・004号 遺物出土状況（北西から）



001号 遺物出土状況（東から）



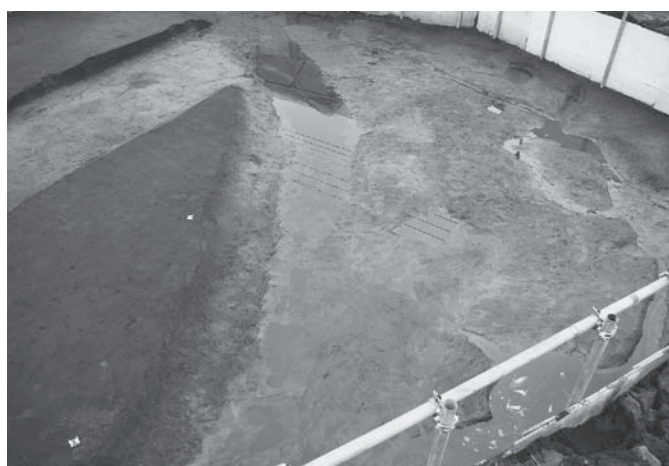
004号 遺物出土状況（南東から）



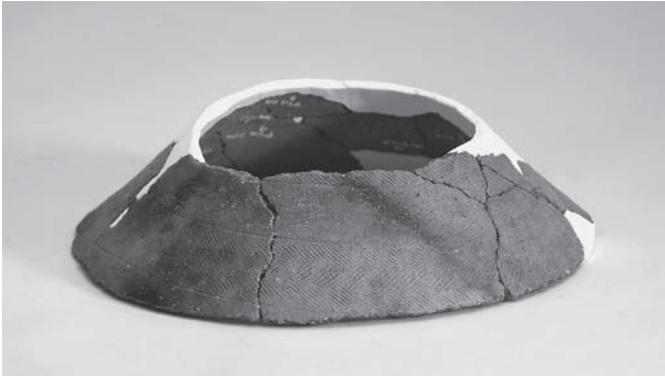
001号（北西から）



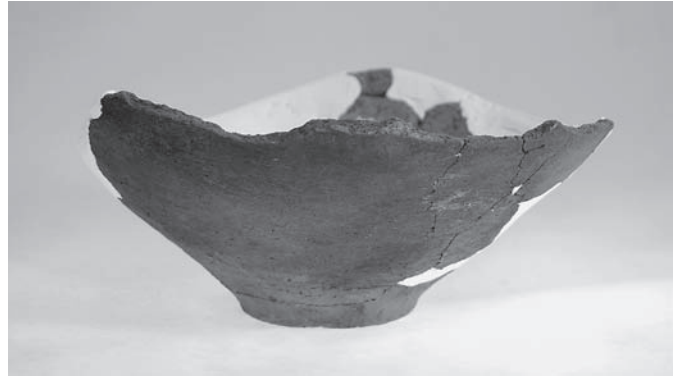
004号（北西から）



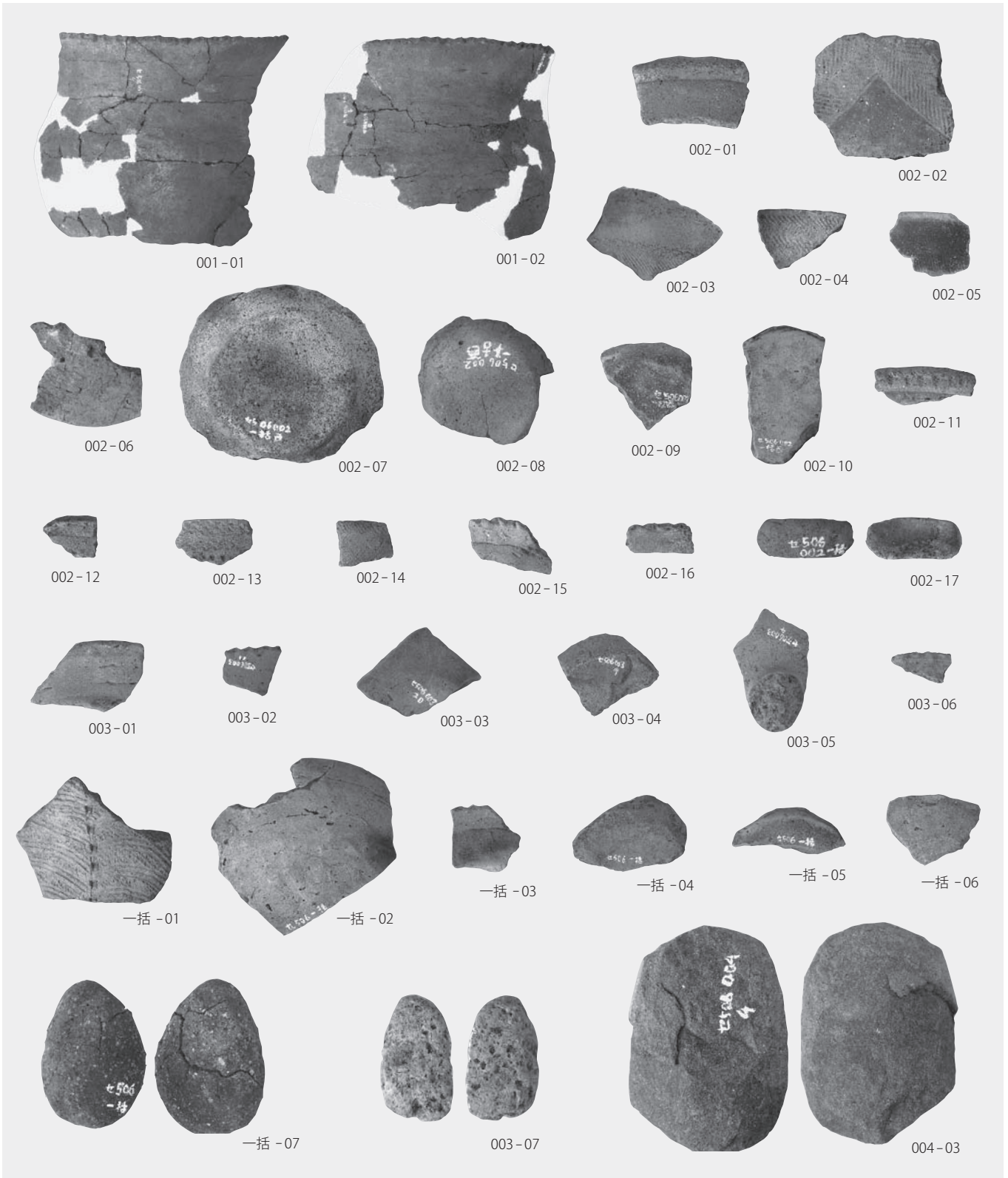
002号・003号（北西から）



004-01



004-02



# 報告書抄録

ふりがな	いちはらしさんしんいせきながつまえちく							
書名	市原市山新遺跡永津前地区							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第28集							
編著者名	小川浩一							
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436 (41) 9000							
発行年月日	2013年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんしんいせきながつまえちく 山新遺跡永津前地区	いちはらしあねさき 市原市姉崎 2580-1	12219	セ506	35度 28分 28秒	140度 3分 41秒	20121102 ～ 20121109	113	老人デイサービスセンターの設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
山新遺跡永津前地区	包蔵地	弥生古墳	土坑3基 溝状遺構1条	弥生土器 古墳時代土師器	東京湾岸に展開する沖積地において、弥生時代後期と考えられる土坑墓等を、検出した。			
要約	<p>山新遺跡永津前地区は、市の北側に存在する東京湾岸沿いに展開する沖積地にあり、標高7m前後の砂堆列上に位置する。調査の結果、弥生時代後期の土坑墓や、古墳時代前期の溝状遺構などを検出した。土坑墓は、砂堆列上に位置しており、うち一基は、壺の上部を打ち欠いて破片を置いた上に、下半部を「土器棺」として埋納したと考えられる。溝状遺構は、砂堆列上から低地に向かって、ゆるやかに弧を描きながら、南下している。調査範囲が狭小なため、溝状遺構としたが、円墳の周溝である可能性も否定できない。</p> <p>これまであまり調査事例のなかった姉崎地区における、東京湾を望む沖積地の調査成果は、今後、沖積地の歴史的な環境の復原を考えていくうえで、大いに参考となるだろう。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第28集

## 市原市山新遺跡永津前地区

平成25年3月13日 印刷

平成25年3月15日 発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター

発行 株式会社QOL  
市原市教育委員会  
(市原市埋蔵文化財調査センター)  
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地  
TEL 0436-41-9000

印刷 株式会社 弘文社  
〒272-0033 千葉県市川市市川南二丁目7番2号  
TEL 047-324-5977